

災害に対する備えを

東日本大震災からもうすぐ10年になります。マスコミ報道も目立ってきていたところでした。「あの日を忘れないように」「風化しないように」という呼び掛けも目立ってきていたところでした。ところが、2月13日(土)、午後11時7分過ぎに、福島県沖で、大きな地震が発生しました。震源の深さは、約60キロ、地震の規模はマグニチュード7.3。これはなんと10年前の東日本大震災の余震だそうです。私たち人間が創り出した「時間の経過」と自然界の営みの流れは大きく異なるものだとつくづく感じます。自然の中で生かされている人間の存在を考えさせられます。

皆さんのご家庭はどうだったでしょうか。学校に報告しておいたほうがよいことがあれば、遠慮なく担任の先生、学年の先生に話してくださいね。保護者の皆さまにおかれましても、何か学校に知らせておいたほうがよいと思う情報があれば、ご提供をお願いします。今後の学校防災の指針の参考にしたいと思います。

実は地震の翌日の日曜日に、保護者の方々から多くの情報をいただきました。特にマンションに住んでいる方々の被害が大きそうだと伝えていただいたこと、お子さんの状況を伝えていただいたこと、地域の情報を提供していただいたこと等、有り難い限りでした。心より感謝申し上げます。

皆さんもほとんどがそうだったと思いますが、私も自宅でこの地震を体験しました。徐々に大きくなる揺れ、長い揺れは「また、あの時と同じか」と恐怖感でいっぱいでした。揺れがおさまった時「津波は?」と、すぐにテレビで確認しました。どうやら津波の心配はないと分かった時はほっとしました。その後、学校に急行しました。私が到着した時には、多くの先生方が校舎の片付けに取りかかり、避難所立ち上げの準備をしていていました。地域の避難所準備委員会の方々もすぐに駆けつけて来ていました。自家用車で本校まで到着しましたが、国道は大混雑していました。きっと学校の先生方、役所の方々、親族の安否確認等、様々な事情で混雑したのでしょうか。タクシーもかなり走っていました。「あの時と同じだ・・・」二度と体験したくないなと感じた事がまた起こっていると思い、気が滅入りそうでした。仙台駅前のスクランブル交差点には、あの時間にかなり多くの方々がいまいました。帰宅難民のような状態になっていたのでしょうか。

本校は校舎も古く、10年前も大きく破損しましたが、今回もかなりの被害を受けました。校舎1階に沿った犬走りは、大きく傾斜しました。校舎内のモルタルの落下、図書室の本棚からの大量の本の落下、トイレ、教室のひび割れ、校舎のつなぎ目の金具の破損等・・・そして皆さんの教室のロッカーに保管されていた教科書や副教材の落下、下足箱の生徒用上靴の落下、散乱等。

ご家庭でも土、日曜日は後片付け等で大変な思いをしたのではないのでしょうか。14日の日曜日、深夜にいったん帰宅した職員も含めて、午前10時に全員が再集合し、校舎内外の再点検、散乱した教科書や上靴の整備、教室内の清掃等を行いました。深夜に見た校舎とは異なり、破損箇所も明らかになりました。職員の中から「校舎に生徒を入れて良いかどうか、専門家に点検してもらったほうがよいのではないか」という意見が出されました。その通りだと思いました。その日の午後1時過ぎに、市教委から派遣していただいた2名の方々に校舎を点検していただき、安全を確認し、月曜日に皆さんを受け入れられることができました。

15日には朝一番で校内の避難経路も再確認しました。ここ数日は、まだ大きい地震が起きる心配があります。災害に対する備えを家庭でも確認してくださいね。まずは皆さんが登校してくれて安心しました。今後、大きな災害がないことを祈りつつ、備えも怠らないようにしましょう。